

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270101619		
法人名	有限会社 ハーモニー		
事業所名	グループホーム ハーモニーそが		
所在地	千葉県千葉市中央区蘇我4-22-11		
自己評価作成日	平成22年4月14日	評価結果市町村受理日	平成22年8月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307		
訪問調査日	平成22年5月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人一人の個性や性格、有する能力を理解するために職員一人一人が先入観なく自分の見方、感じ方で入居者さんを見て、その情報を共有することで自分では気付かなかったことや見つけられなかった事を埋めていき点ではなく線で入居者さんを理解できるようにしている。・感謝されてる、必要とされてると思っただけのようにどんな時も感謝の気持ちを忘れず、「ありがとう」と言葉にし伝えながら業務にあたるようにしている ・「人として生きる」ことを大事に支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

千葉市の郊外の新興住宅地に転居してきて2年の新築平屋木造づくり、1ユニットの地域密着型グループホームです。千葉市内中央区にあって川や樹木の豊かな自然環境や静かで日当たりのいい生活環境にも恵まれています。
今回実施した利用者家族アンケートにおいて、利用者家族は「職員は明るくやさしく利用者の生活ペースを大事に対応してくれている」と好感しており、その結果、ホームは一人ひとりに家庭的でやすらぎのある、安全・安心な居場所を提供することができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングなどで職員同士で確認しあい実行できているかを振り返りながら業務を行っています	「家庭的な雰囲気の中で、入居者の有する能力を活用し、人として生きることを支援する」との分かりやすい理念を掲げていますが、課題の地域密着型グループホームの趣旨を織り込んだ新しい理念は未だ作られていません。	「地域と交流し地域で暮らし続けることを支えていく考え」も取り入れ追記した理念作成が望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の行事や毎日の散歩で近隣住民の方と挨拶をかわすなどしています。また、近所の公園では小さな子供と遊んだりしています。	町内会の夏祭りにはホームのみんなで行事を歓迎しました。毎日の散歩の折には、住民の方との挨拶や、子どもたちとの交歓など、できることから地域とのつながりを深めていくよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者が外出し近隣住民の方とふれあうことで認知症への理解は深まっていると思われます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年はインフルエンザの影響で多数の家族から集まりをやめて欲しいとの申し出があったため行えていません。	この1年間は新型インフルエンザ流行の恐れから、会議の開催は企図したものの実行できませんでした。新興住宅地のため町内会長はじめ住民の皆さんは日中働いている方が多いうえ、介護福祉に対する関心もまだ薄く、委員委嘱が困難な状況にあります。	会議は2カ月に1回以上行政又は地域包括支援センター、民生委員、近隣住民、利用者家族等を交え開催することが望ましいとされています。取りあえずは現在の環境の中で可能な形で1回でも多く開催するよう努めていくことが望まれます、
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題などがあるたびにその都度市の担当者に相談しています。	市の担当者とは生活保護者の紹介の件で都度相談して、ホームの考えや実情などを伝えていきます。介護相談員の来所はありません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などに参加し身体拘束の弊害を理解しできるだけ身体拘束がない支援をしている。玄関の鍵は夜間以外いつも開放してある。	玄関は日中は鍵をかけず開放しています。夕暮れ時に帰宅願望の起こる利用者には、都度現在の家族事情を話し納得して落ち着いて貰うようにしています。このように、身体拘束感を感じることのないよう、利用者を独りにせず常に誰か話し相手がいるといった、気配り・目配りをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員にどんな事柄が虐待になるのか理解させ言葉遣い、態度などおかしいところはその都度注意するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する方がいらしたのでその機会に勉強会をひらき皆で学習した		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族・入居者がきちんと理解するまで何度でも説明するようにしている。契約の際は時間をかけてじっくり説明をするようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも気軽に話して下さるような関係を作れるようにしている。外部の相談先も契約の際に説明している	地域密着型グループホームとして開設されたホームであり、家族が比較的近くに住んでいるので、平均月1回程度の家族の来所時に意見・要望を聞き、運営に反映するよう努めています。家族会はありません。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで一人一人意見を聞く機会を設けている。困ったこと、気付いたことなどはその都度言ってもらえるような関係作りをしている	月1回開催するホーム長以下職員全員でのミーティングでは、1ユニットの利用者ごと、介護サービス、食事、健康・衛生、日中生活に関し、職員の意見を聞き、サービスの向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の能力や頑張りによって任せる仕事を増やしたり、研修に参加させたりとマンネリを防ぎやる気を下げない努力をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人にあった研修への参加や月1の勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などへの参加時、同業者との意見・情報の交換などを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	場の雰囲気や馴染んでいただけるように本人、家族と一緒に見学に来ていただいたり、希望があれば体験入居も行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には必ず見学をしていただき、不安に思っていることは全てお話いただくようにしている。そのため面談や見学の際は時間をかけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの支援が適切かをよく見極め、必要であれば他のサービスも取り入れるよう柔軟な対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には「人」として接することを徹底し、一緒に暮らしているような気持ちで業務にあたるようにしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の問題は必ず家族と連携をとり一緒に解決するようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の許可があれば親戚や友人の方達にも遊びに来ていただけるようにしている	馴染みだったレストランに出かけたり、本の好きな利用者に本屋まで付き添って行き喜ばれました。お酒の好きな利用者の希望に添い居酒屋に出かけ、その後、鬱気味だった利用者が明るくなった等、個別支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「できない人を手伝う」そんな当たり前のことが自然にできるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族が遊びに来てくださったり当方からもお見舞いに行ったり、1周忌などにはお花を送っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活のなかで本人が望んでいることを導き出し希望に沿うようにしている。言葉で言える方は普通の会話の中から引き出すようにしている。	意向の把握が難しい利用者には、家族から生活歴を聞いています。あまり何もすることのなかった方が、木目込み人形を部屋に置いたのをきっかけに、木目込み人形教室に通うようになり、その上自分から茶碗を洗ったりして、活き活き暮らすようになった例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談は出来る限り自宅で行うようにし本人の生活の場や環境を実際に見るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	有する能力を理解するために出来たこと、できなかったことを職員同士で情報を共有し、できなかったと言う負の経験を出来る限りしないように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向や本人の希望を聞いたうえで職員に報告しミーティングなどで話し合い計画を作成している	計画作成者担当者を中心に、本人や家族の希望を尊重し、医師や看護師の意見を反映して職員と共に計画を作成しています。半年に一度の定期的見直しと、介護保険の更新時、入院後の退院時などに随時の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時実際に入居者が言った言葉で記録をとるようにしており、その時に職員がどんな声かけをしたのかも記録することで新たな気づきが出来るようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のニーズにより今年度より訪問診療を開始した		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の有する能力に合わせてその人らしく生活出来る様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に合わせて病院や訪問診療など選択していただいている。	利用者の体調に応じて協力医療機関の外来に職員が付き添って行きます。歯科の訪問診療では、必要な方に、虫歯の治療、義歯の調整や口腔ケアをして貰い、支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を現在検討中。かかりつけ病院の看護師は理解をしてくれ、アドバイスなどもしてくれる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態をこまめに見に行き看護師などに必ず様子を聞く様にしている。ホームの状態を相談し退院時期を決めてくれるような関係性が築けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、本人の希望になるべく添えるように相談や話し合い、情報提供など行っている	できるだけ長くホームで対応したいと考えています。しかし利用者が常時医療行為が必要となった時には、協力医療機関で受診し、必要によっては入院となる場合もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その都度連絡の仕方、連絡先などをつたえている。職員に救急処置の研修を受講させる予定		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方指導のもと避難訓練を行う予定	6月と10月の年2回、台所から火災発生を想定した自主消防訓練を行っています。日常的には、消火器、非常灯等を点検整備し、避難通路を確保しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人」として接することを忘れないよう徹底している	利用者のプライバシーを尊重し、行動制限をしないような心遣いをしています。またトイレ誘導の声かけには、羞恥心に配慮をしています。利用者がリビングに居る時間が多く、個室に入る必要がある場合は、本人の許可を得るようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを表現できない方が多いので行動や表情から気持ちをくみとるようにしたり、2択にして選んでもらうように工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを細かく決めず、一日一日を入居者のペースに合わせた過ごし方をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容や美容院に行くなどして身だしなみに気を配っている。時々メイクをしたりマニキュアを塗ったりして楽しんでいる。洋服も本人の好きな物を買に行ったり、選んで着てもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が一体になりメニュー決めから調理まで行っている。終わったあとは必ず「ありがとう」という言葉を付加えるようにしている	朝食は利用者の希望に応じて、ホームで焼いたパンを出しています。ご飯の希望者には、おにぎりにするなど、細かい気配りをしています。家庭から馴染みの茶碗などを持参していますが、割れた時には本人と一緒に買いに行き、好きな茶碗を選んで貰っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼能力によりお粥にしたり、刻み食にしたりしている。水分量が少ない時は好きな飲み物を家族に聞き提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医院で働いていた職員がいるため口腔ケアについて職員に指導している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を目標としている。時間を決めずその都度対応している	排泄記録から排泄パターンを把握し、利用者の様子を見ながらトイレ誘導を行っています。また座り方を少し前かがみにするよう工夫した結果トイレでの排泄が出来るようになった方等、自立支援の効果を上げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かしたり、マッサージにより便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全介助の方が多いため入浴時間、曜日が現在は決まっているが、今後は考えていきたい	季節により菖蒲湯やゆず湯、入浴剤を時々入れ利用者から喜ばれています。無口な利用者が、職員と一対一になる入浴時には良く喋りコミュニケーションが取れる等、入浴が楽しみとなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方にあったペースで気持ちよく夜間休めるように日中の過ごし方を工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当入居者の薬をセットすることにより「何を服用しているのか」「どんな薬なのか」を知ってもらいわからないことは薬剤師に聞いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	社会との係りが切れないように外出の機会を多くもてるようにしている。本人の得意なこと、体力などを考え役割を持って毎日行ってもらおうようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に2回の家族も含めた外出企画を計画している	散歩はほぼ全員で出かけ、子どもと会うと利用者が話しかけたりして、和やかなひと時を過ごしています。買い物の希望があれば、職員と車で出かけています。花見や葛西臨海公園に家族と共に遠出することもあります。	利用者の希望に添った外出支援を更に増やすよう検討することが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に合わせて金銭管理を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話や手紙などは自由にできるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には天窓も設置してあり昼間は日の光で過ごせる。明るく快適に過ごしている	居間兼食堂の周りに個室・台所・浴室・トイレが配置されて、全体が死角なく見渡せます。浴室・トイレは脱衣場を含め、羞恥心への配慮に工夫がされています。利用者と職員全員が集いバーベキューなど野外パーティができるベランダが庭に広がっており開放感があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はみなさんほとんどリビングで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご本人と家族で好きなようにレイアウトしてもらっている。危険物以外はご自宅でしようとしたものはなんでも持ってきていただいている	入居時には、好みのベッドや寝具やカーテンを調達し、馴染みのダンスや机や写真、装飾品を持ち込み、自分の城をつくり、居心地よく暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の有する能力に合わせてその人らしく「人として自分の力で生きる」ことを支援しています		